

令和6年度 学校評価（学校関係者評価書）

1 学校運営の目標・方針

「こころ豊かに生きあう子どもの育成」
ー学校運営協議会と協働し、家庭・地域と連携を図りながら、人間尊重を基盤とした、やさしく、たくましく、自主性のある子どもの育成ー

2 本年度の重点目標

- ①兵庫型学習システムの推進
②全ての子どもが「分かる」「できる」、確かな学力を保障する授業づくりーユニバーサルデザインを取り入れた指導の工夫ー
③地域とともにある学校づくり

4 総合的な学校関係者評価

・旧来の教育に拘らず、より良い子どもの成長をめざし、学校運営や指導方針の中に小規模校としての特性を活かそうと尽力している。
・チーム担任制という新たな取り組みは、子どもの少人数化による問題の改善に役立っていると感じる。子どもを多くの目で見守り、素早く対応するための体制づくりにつながっている。ただ、一層の教師間の連携が重要である。
・児童も地域の一員であることを理解し、地域活動に参加する姿も多々みられ、地域とともにある学校づくりを体現されている。今後も、学校・地域・家庭と連携の意識を一層高める必要がある。
・児童の自主性に重きを置き、アイデアをくみ取り実行、実現できるよう先生方が接されている姿が見られる。その中で、子どもたちが分け隔てなく接し、互いを思いやる心が育ってきている。
・子どもたちにボランティアの方々へ、感謝の気持ちを持つように指導し、地域とのつながりを大切にしてくださっている。今後、子どもには「権利と義務」「自由と責任」を一語として身につけるよう指導してほしい。

3 学校自己評価結果 A：十分達成している（そう思う） B：おおむね達成している。（ややそう思う）
C：どちらかというとは達成されていない。（あまりそう思わない。） D：ほとんど達成されていない。（そうは思わない）

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
学校運営	・学校教育目標や学校経営方針を教育活動に反映し、日々の教育活動を学校だより・学級だより・ホームページ等で分かりやすく伝えている。	A	・児童の活動の様子や学校での取り組みを学校だよりやＨＰで知らせている。学校からの各種お便りは『スクリレ』を利用し、効率的に保護者に伝えている。 ・学校行事の実施時期の見直しを行ったが、保護者からは様々な意見が出ている。全ての意向を汲むことは難しいが、検討を続けていきたい。 ・今年度より、「チーム担任・教科担任制」を導入し、担任一人が悩みを抱えることなく、複数の教師で児童の情報共有を密にし、多面的な児童理解に努め、特にいじめや不登校に関して早期発見・早期対応を心がけた。また、「困りごと（いじめ）アンケート」の分析と事後指導の経過観察を通して、積極的な認知と未然防止、早期発見、早期対応における組織的対応を行った。 ・登下校指導、安全点検などを定期的に行い、児童の安心安全に努めている。
	・学校行事の時期や内容は適切である。	A	
	・清掃が行き届いており、美化に努め、校舎内外の物が整理整頓されている。また、定期的に施設・設備の点検をしている。	B	
	・いじめ・不登校問題等への対応は適切で、教職員が一致協力できる生徒指導体制ができている。	A	
	・危機管理マニュアルを作成し適切に運用している。登下校の安全について、点検・指導がされている。	A	
教育課程	・授業方法を工夫・改善し、分かりやすい授業に心がけている。	B	・全ての子どもが「分かる」「できる」、確かな学力を保障する授業づくりー授業のユニバーサルデザインーを研究課題として取り組んだ。講師を招聘しての全校研やブロック研を行い、教師の授業力向上を目指した。 ・授業中、自分の考えを整理する時間やグループで交流する時間を設け、自力解決ができるよう心がけた。 ・全校で学習のきまりを統一し、学習に取り組む準備や心構えを日々指導している。忘れ物や課題（宿題）の未提出が多い児童には、児童の学習事項の理解度を確認し、時間をかけて対応している。 ・授業や行事、様々な学級活動を通して、児童自らが考え、発案したアイデアを積極的に汲み上げ、達成感や自己肯定感を高める指導に取り組んだ。 ・特別の教科道德の時間を確保し、学びが日常生活の中で実践につながるよう日々声かけをしている。
	・評価（授業評価・学びの姿等）を通して、適切な指導をしている。	B	
	・子どもに家庭学習（宿題等）や学習準備等の習慣を身につけさせている。	A	・教室の読み物の本を児童が選び、休み時間等で読む姿が見られた。「スプーンおばさん」や、図書委員、教師の「朝の読み聞かせ」を通して、児童の読書への意欲・関心が高まってきた。
	・体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れている。	A	
	・道徳の授業を大切にし、内容の充実にも努めている。	A	
	・読書活動を充実させている。	B	

5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
・学校便り、ＨＰ、地域回覧等で、情報が広く発信されている。分かりやすい文面で、内容が充実している、保護者や地域に見えやすい学校づくりがなされている。 ・「チーム担任制・教科担任制」が徐々に定着してきた。課題の発見・解決など早期対応につながっている。また、子どもたちの主体的な教育活動がしっかりと保障され、根付いてきている。今後、チーム内での引き継ぎなど、より良い方法を検証していったほしい。 ・対外的な行事が設けられており、子どもたちが地域の方とふれあい学ぶ機会も多かった。 ・気候の変化や教育内容の増加を考慮すると学校行事の見直しは、必要である。見直しについては、様々な保護者の立場があるので、内容・時期など既成概念にとらわれず「学校の運営のしやすさ」を第一に検討され、スケジュールを早期に開示すれば良い。 ・清掃活動のボランティアで中学生たちと交流ができて良かった。民生委員等にも協力を得て、周知を図る工夫ができればより活性化できると思う。 ・登下校時の上級生として役割（リーダーシップ）や不慮の行動の抑制など、ご指導してほしい。 ・学校前の信号、道路の拡張により、登下校の安全性が高くなった。より良い環境にするために、行政への働き掛けも必要だと思う。
・全校で同じ方向を向いて研究を進めて研究課題に取り組むことは大切だ。継続して取り組んでほしい。（ユニバーサルデザインを取り入れた指導の工夫） ・子どもの個性を尊重し、多面的に捉え、良い面を伸ばす指導を心がけている。 ・子どもが主体的に考え、行動する機会を設けることで、達成感や自己肯定感を高め、次の課題に対し前向きに取り組むという良い連鎖が起きている。 ・自分の考えを整理し、それを文章や言葉にすることは大変難しいと思うが、グループでの交流により効果が上がっていると思う。 ・家庭学習については、保護者への情報発信を丁寧に行ってもらいたい。 ・様々な体験学習に取り組むことによって、子どもたちの創造力や豊かな発想の起点になっている。さらに、日々子どもに対する先生方の「プラス思考の言葉かけ」により、子どもたちの自己肯定感や学習意欲の向上につながってほしい。また、子どもからの発案やアイデアを汲み取り成功につなげていくのは、良い事だと思うし、成功体験にもなる。 ・１人１台タブレット端末が身近にあるので書物を読む習慣が減り、今後とも「文字離れ」が進むと思うが、読書や本の読み聞かせにより、文章力や表現力、コミュニケーション能力の向上が期待できるため、本と出合える場をより大切にして欲しい。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
課題教育	・生命の大切さ、共に生きる豊かな心の育成に努め、地域の人々との関わりを通して、実践的な力を培っている。	A	・学校教育目標にある『学校運営協議会と協働し、家庭・地域と連携を図りながら、人間尊重を基盤とした、やさしく、たくましく、自主性のある子どもの育成』に基づき、学校運営協議会と6年生有志による【座談会】を初めて開催した。地域の方の支援を得て、『なんなんフェスタ』に有志児童が店出したり、異学年との交流遊びを実施したりと、児童の意欲的・積極的な姿が見られるようになった。 ・地域の方々の協力を得て、3年生は米作り（田植え・稲刈り）体験を実施した。 ・阪神淡路大震災発災30年にあたり、EARTH所属の町内教員を講師に招聘し、体験談や日頃の防災への取り組みを高学年児童が学習し、その後の避難訓練に繋げた。	・今年度は9月にコミスク座談会が実現した。6年生の児童が活発に意見を出し発表している様子を見て、実にたくましく自主性のある子どもに育っているなど感じた。また、地域との連携とは何かを児童も感じ取れたと思うので、非常に良い取り組みだと考える。コミスク座談会は、子ども達の考え方や姿勢を知る上でとても有効であり、内容などの充実を図りながら継続してほしい。 ・学校行事や地域の行事など、いろんな場面で児童の活躍する様子を見ることが多くなってきている。 ・『動物ふれあい教室』に参加し、異年齢の人達と触れ合いながら、生き物に接して命の大切さを学べた。子どもたちの心に命の大切さと優しさを芽生えさせる機会になっている。 ・『ヒンメリ』等、昔ながらの遊びを通して、日本古来から伝わる物の良さを感じて、伝承していくという気持ちも育ってほしい。 ・避難訓練をする事で、いつ起こるか解らない災害に備えて、自分の命を守り、人の命を大切にすることを学び行動に移せるようになってきている。今後、計画立案に子どもが参画する機会を作り、各学年それぞれで避難時の役割などを自主的に担ってほしい。 ・ICTの活用を通して、現在の情報活動能力を養うことの大切さを痛感する。
	・環境体験学習・自然学校等で体験活動を充実させている。	A		
	・計画的に避難訓練等を実施している。	A		
	・積極的にICTを活用し、情報活用能力を育成している。	A	・1人1台タブレット端末や大型モニターなどのICT機器を活用する等、ICTの活用方法を日々試行錯誤し、全員が前向きに参加できる授業を構築できた。	
努力目標	・正しい言葉遣いができるように指導している。	B	・授業中の発表の仕方や教師や大人に対しての言葉づかいについて指導を日々続けている。また、友だち、教師、地域や訪問者にもしっかりとあいさつができるように今後も指導を続けていく。 ・教師は、各教科の教材研究をしっかりと行い、児童一人一人が学ぶことの面白さを実感し、自ら学びたいという意欲が持てるよう授業を行っている。また、児童自らが課題を設定し、様々な情報手段を駆使して問題を解いたり、社会の動きを把握したりする経験をさせる。 ・体育学習では、自分で目標を設定し、それを達成するためにどのような練習が必要か、改善点は何かを考えさせる授業に取り組んだ。水泳や運動会の練習は、高温の日が続く、熱中症対策を取りながら行った。今後も同様の状況が予想されるため、練習日程を考慮するとともに、水分補給や休憩時間を十分に確保して取り組んでいく。	・言葉遣いは周囲の大人の会話やスマートフォン等からの影響が大きいと感じる。「使ってみたいが、その言葉を使い続けることは正しくない」言葉の判断ができる指導をして頂けたら良いと思う。あいさつも、何故あいさつをするのかの理由を考えさせる指導をして頂きたい。 ・子どもたちの仲の良さは、学校でも地域に帰った時でも随所に見られる。 ・未来塾では、解らないことを互いにたずね合ったり、自然に教え合ったりする姿が見られる。 ・大きい声で、元氣よくあいさつできる子どもたちが多いが、あいさつがなかなかできない子どももいる。大人も子どももみんなであいさつ出来る明るい地域になればよい。継続した指導が必要である。 ・下校見守り等に対して、感謝の気持ちを伝えることができている。また、行事等での挨拶や発表もしっかりとした言葉で自信をもって話すことができている。 ・興味関心を持った事に向き合える機会を設け、興味の深まりと探求心を大切にすることにより、学習意欲が向上している。今の自分より少し難しい事を少しずつ挑戦し、一つ一つクリアしていき、自信をつけさせていきたい。 ・教材研究をしっかりと行っていたが、児童一人一人が「今日も学校楽しかった！！」と思えるように指導していったほしい。 ・生きていくうえで、体力は必要不可欠であるので、年間を通じ(暑い中でも)身体の育成に取り組まれているのは良いと思う。
	・仲良く協力できる学級づくりをしている。	A		
	・きまりを守り、あいさつがしっかりできるように指導している。	B		
	・何にでも興味・関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を持てるよう指導している。	A		
	・運動や健康教育を通して健やかな体の育成に取り組んでいる。	A		

自己評価における特記事項

・チーム担任制を導入し、これまで以上に多くの教師が児童を見守ることににより、個別最適な学びにつなげ児童の可能性を引き出す指導の一層の充実と、中学校への円滑な接続を図った。
・授業のユニバーサルデザイン化の研究を3年目も継続して行い、すべての児童が「分かる」「できる」、そして確かな学力を保障する授業づくりを推進した。児童が行う学力・体力テストおよび学級力調査、教師が行うユニバーサルデザインチェックリストにより数値化を行い検証した。
・ICT活用能力の向上をめざし、1人1台タブレット端末の活用やデジタル教科書の有効的な活用について研究・研鑽を行った。
・図書室利用増を目指し、委員会活動の充実や家読の呼びかけの徹底などにより読書活動の充実を図った。
・行事や授業の中で児童に活躍の場を設定し、充実感や達成感を感じるよう取り組んだ。その結果、自己肯定感が高まった児童も増えつつある。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

・チーム担任制について、児童や保護者・職員の見解を集約し、より効果のある方法を検証していきたい。
・授業のユニバーサルデザイン化の結果を検証し、全ての児童にとって「分かる」「できる」授業の在り方や、学力保障の方法を全職員で共有出来るようにする。
・デジタル教科書が今後も導入されていくのに対し、より有効な活用方法について、研究・研鑽を重ねていく。